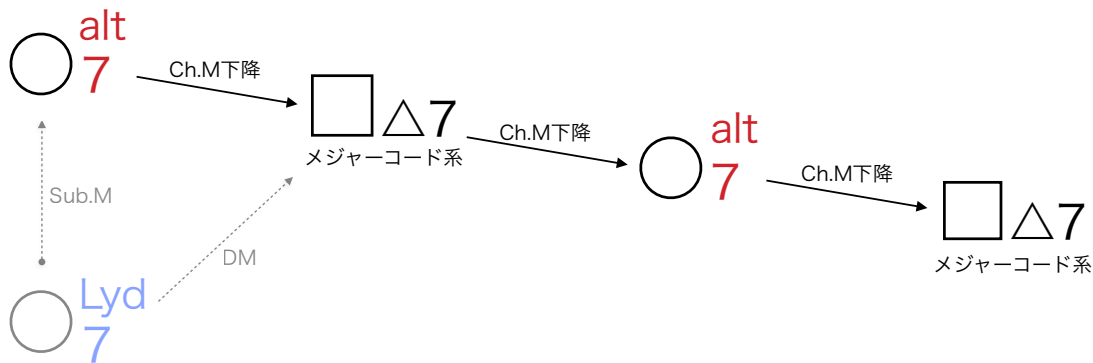


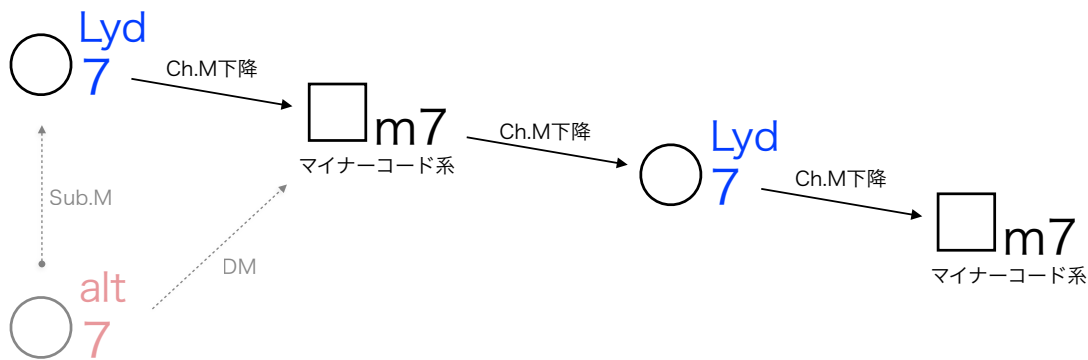
# 第7回 Real minor scaleの世界④

Advanced chord progressionは実践においてその意味も効果も身につきます。その多くは定番的な技法【Tips】として使われます。具体的に示して説明します。

## 【Tips】 Alteredは半音下のメジャーコード、Lydian7thは半音下のマイナーコードへ進行



共にクロマチックモーション下降形を繰り返せる



あくまでも基本形なので、これを逆に使う場合もよくある。

## 【7Ex-etude1】

alt → メジャー

Lyd7 → マイナー

Lyd7 → マイナー

alt → メジャー

Chords: C<sup>(9)</sup>Δ7, B<sup>(#9 b13)</sup>7, B<sup>(9)</sup>Δ7, A<sup>(#9 b13)</sup>7, E<sup>(9 13)</sup>7, D<sup>(9)</sup>m7, G<sup>(9 13)</sup>7, F<sup>(9)</sup>m7, F<sup>(9)</sup>7, E<sup>(9)</sup>m7, A<sup>(#9 b13)</sup>7

alt → メジャー

Lyd7 → マイナー

Lyd7 → マイナー

alt → メジャー

Chords: A<sup>(9)</sup>Δ7, G<sup>(#9 b13)</sup>7, G<sup>(9 13)</sup>Δ7, B<sup>(9 13)</sup>7, B<sup>(9)</sup>m7, E<sup>(9 13)</sup>7, D<sup>(9)</sup>m7, G<sup>(9 13)</sup>7, D<sup>(#9 b13)</sup>7

## Altered dorian(r.mVI)とLydian#5(r.mIII)

Real minor scale systemでは圧倒的にAltered(VII)とLydian7th(IV)が使われます。現時点においてはあまり使われることのないその他のスケールですが、ツボにはまって使えばとても効果のあるスケールにAltered dorianとLydian#5があります。この二つのスケールはポジションとしてトライトーン離れており、不完全ながら代理関係にあります。

まずはそれぞれのスケール確認をしましょう。

### Altered dorian (r.mVI)

D $\emptyset$ 7    D $\emptyset$ 7<sup>(9)</sup>    D $\emptyset$ 7<sup>(9 11)</sup>    D-Altered dorian

注: コードには使わない

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R 9 m3 11 o5 13 m7
3 対応コード	$\emptyset$ 7 $\emptyset$ 7(9) $\emptyset$ 7(9 11)
4 テンション・アポイド	テンション=9 11 (13) アポイド無し

### Lydian#5 (r.mIII)

A $\flat$ + $\Delta$ 7    A $\flat$ + $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>    A $\flat$ + $\Delta$ 7<sup>(9 #11)</sup>    A $\flat$ -Lydian#5

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R 9 M3 #11 +5 13 $\Delta$ 7
3 対応コード	+ $\Delta$ 7 + $\Delta$ 7(9) + $\Delta$ 7(9 #11)
4 テンション・アポイド	テンション=9 11 アポイド=13

## 不完全代理のAltered dorianとLydian#5

Altered dorianとLydian#5は代理関係にあります。代理の一般定義「ルートがトライトーン離れたドミナントコード同士」には当てはまりません。また $\emptyset 7$ 、 $+\Delta 7$ と互いにコードクオリティも違い特殊な代理関係といえます。しかし、実践上はおおむね「置き換えと進行の同時選択」が可能です。これら二つのスケールは使用頻度ではかなり低いですが後述するそれぞれのスケールの使い方から積極的に使ってみるととても面白いサウンドが得られます。

: r.mF

D-Altered dorian (r.mVI)

A $\flat$ -Lydian#5 (r.mIII)



## Altered dorianの使い方

まずは名前に注目してください。全く「Dorian」と似つかないスケールなのにこの名前が付いているのは「II-V」の「II」というイメージが有るためです。実践ではD7CのII m7とセカンドリードミナントのII-V化での「II」で使われます。また、対応コードが $\emptyset 7$ なのでD7CのVII $\emptyset 7$ と借用で用いられる $\emptyset 7$ コードにも適応できます。

## Lydian#5の使い方

名前にはLydianが付いていますが響きのやや似ているAlteredの代わりに使われることが多いです。もちろん $\Delta 7$ コードからの変化形で $+\Delta 7$ と使われる部分もありますがあまり多くはありません。この場合P5 $\rightarrow$ +5の内声クリシェを作ります。そしてAltered dorianの不完全代理としての使用があります。また特筆すべき点としてm7コードのルートを半音下げると $+\Delta 7$ となり、このクロマチックモーションもよく使われます。

## 【7Ex-etude2】

C $\Delta$ 7
Am7
F $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
D $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
G7<sup>(b9)</sup>
C $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>

## 【7Ex-etude3】

C $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
B $\Delta$ 7<sup>(9 11)</sup>
E7<sup>(b9 b13)</sup>
Am7<sup>(9)</sup>
E $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
E $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
D7<sup>(9 13)</sup>
B $\Delta$ 7<sup>(9 11)</sup>
D $\Delta$ 7<sup>(#9 b13)</sup>
C $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>

## 【7Ex-etude4】

Am7
A $\Delta$ + $\Delta$ 7
Gm7
G $\Delta$ + $\Delta$ 7
F $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
D $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>
D $\Delta$ + $\Delta$ 7
C $\Delta$ 7<sup>(9)</sup>